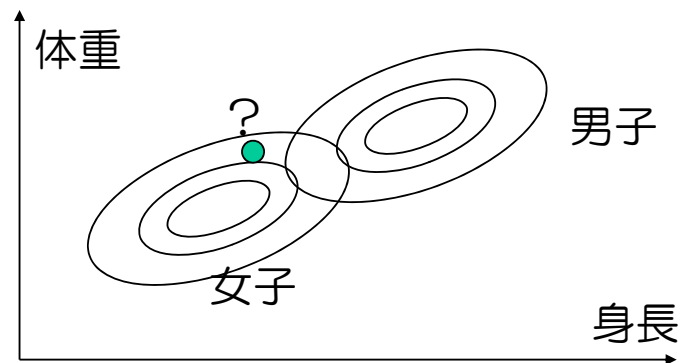


判別分析とは？

2つ以上の群（クラスとも呼ぶ）が存在し、それぞれの群の観測値の統計的性質（平均や共分散）がわかっているとする。

この条件のもとで、あるテストサンプルの観測値から、そのサンプルがどちらの群に属するか、判別したい。

例) 男子学生の身長、体重、女子学生の身長、体重の統計的分布がわかっているとする。このとき、あるテスト学生の身長、体重からその学生の性別を推定したい。



講義内容

マハラノビス距離

1. 1変数の場合
2. 相関のない2変数の場合
3. 相関のある2変数の場合
4. 一般的な表現

判別分析

1. 1変数の場合
2. 2変数の場合

平均 m 、分散 σ^2 の正規母集団
 $N(m, \sigma^2)$ からサンプルを1つ取り出し、
 その値が x であったとする。
 このとき、このサンプルと、母集団
 平均 m との“基準化した距離”は、
 基準化後の変数、

$$v = (x - m) / \sigma$$

の絶対値、

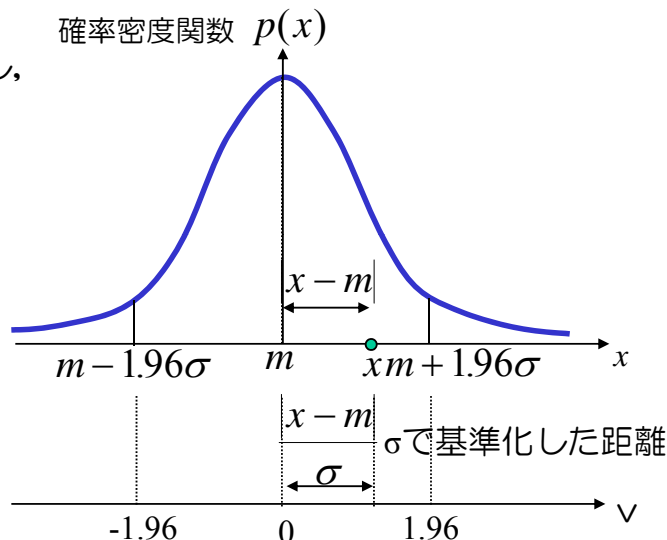
$$d_M \equiv |u| = |x - m| / \sigma$$

で与えられる。また、平方距離は

$$d_M^2 = (x - m)^2 / \sigma^2$$

で定義される。

このように、標準偏差 σ で補正した中心からの距離 d_M をマハラノビス距離という



Mahalanobis : インドの数学者

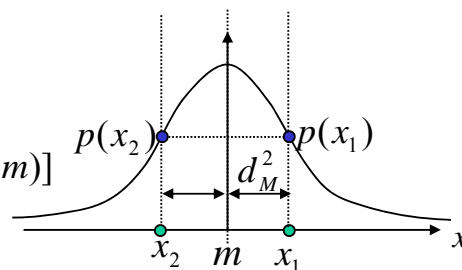
マハラノビス距離と正規分布

1次元正規分布 :

$$p(x) = \frac{1}{\sqrt{2\pi}\sigma} \exp\left[-\frac{1}{2} \frac{(x-m)^2}{\sigma^2}\right]$$

$$= (2\pi)^{-1/2} (\sigma^2)^{-1/2} \exp\left[-\frac{1}{2} (x-m)(\sigma^2)^{-1}(x-m)\right]$$

確率密度関数 $p(x)$

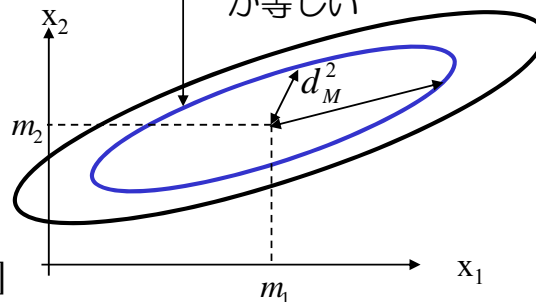


2次元正規分布 :

$$p(\mathbf{x}) = (2\pi)^{-1} |\mathbf{C}|^{-1/2} \exp\left[-\frac{1}{2} (\mathbf{x}-\mathbf{m})^T \mathbf{C}^{-1} (\mathbf{x}-\mathbf{m})\right]$$

$$d_M^2$$

等確率楕円 : マハラノビス距離
 が等しい

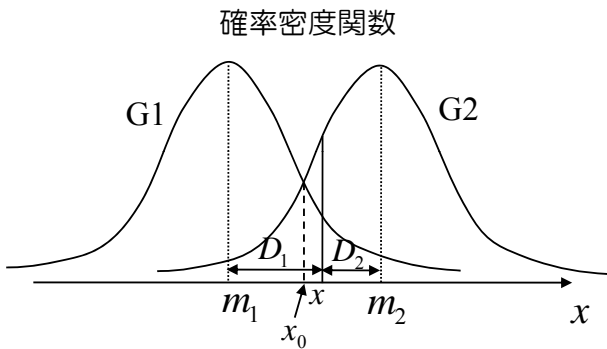


多次元正規分布 :

$$p(\mathbf{x}) = (2\pi)^{-d/2} |\mathbf{C}|^{-1/2} \exp\left[-\frac{1}{2} (\mathbf{x}-\mathbf{m})^T \mathbf{C}^{-1} (\mathbf{x}-\mathbf{m})\right]$$

$$d_M^2$$

2群の判別を考える。
 仮定：分散 σ^2 の値は同じ



$$D_1^2 = \frac{(x - m_1)^2}{\sigma^2} \quad D_2^2 = \frac{(x - m_2)^2}{\sigma^2}$$

母平均からの距離によって判別を行う。
 すなわち、

$$\begin{cases} x \in G_2 & \text{if } D_1^2 \geq D_2^2 \\ x \in G_1 & \text{if } D_1^2 < D_2^2 \end{cases}$$

$$\begin{aligned} D_1^2 - D_2^2 &= \frac{1}{\sigma^2} \{(x - m_1)^2 - (x - m_2)^2\} \\ &= \frac{1}{\sigma^2} \{-2(m_1 - m_2) + (m_1^2 - m_2^2)\} \\ &= \frac{-2}{\sigma^2} (m_1 - m_2) \left(x - \frac{m_1 + m_2}{2}\right) \end{aligned}$$

\uparrow x によらない
 定数

\downarrow x_0

であるから、たとえば

$m_1 < m_2$ の場合

if $x \geq x_0 = \frac{m_1 + m_2}{2}$, then $x \in G_2$

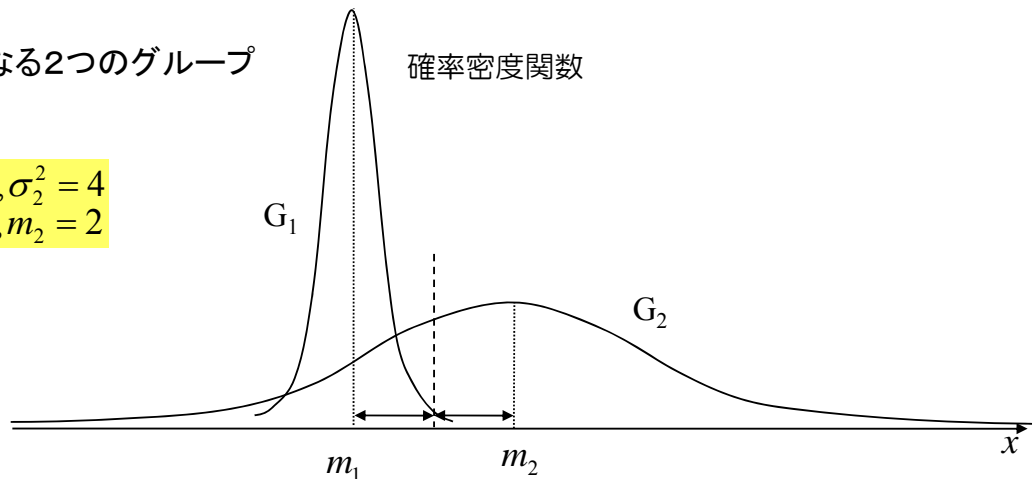
if $x < x_0 = \frac{m_1 + m_2}{2}$, then $x \in G_1$

すなわち、2つの母平均の midpoint のどちら側に x があるかで、属する群が決まる。

1変数による判別（分散が異なる場合）

平均と分散の異なる2つのグループの判別を考える。

分散: $\sigma_1^2 = 1, \sigma_2^2 = 4$
 平均: $m_1 = 0, m_2 = 2$

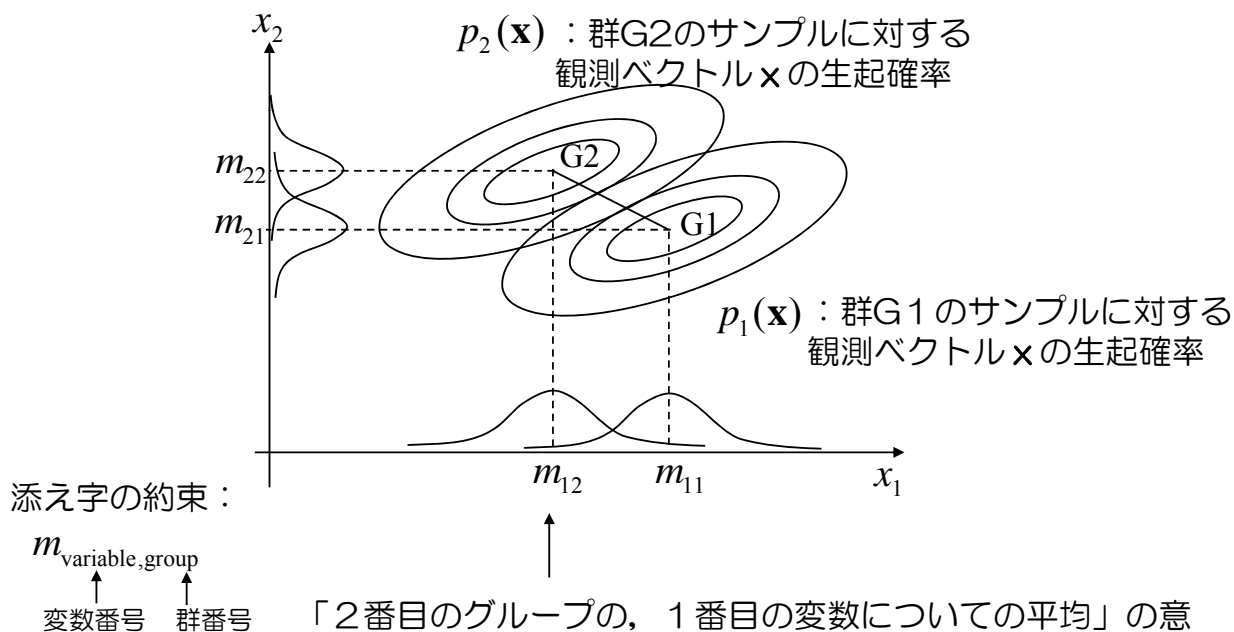


課題1: マハラノビス距離を用いて、グループ分けの境界となる点 (x 座標) を求めなさい。

課題2: データの母集団は与えられた平均、分散をもつ正規確率分布に従うものとする。確率密度関数の大小によって、判別の境界を求めた場合、マハラノビス距離を用いた場合と比べて、どのようになるか考えなさい。

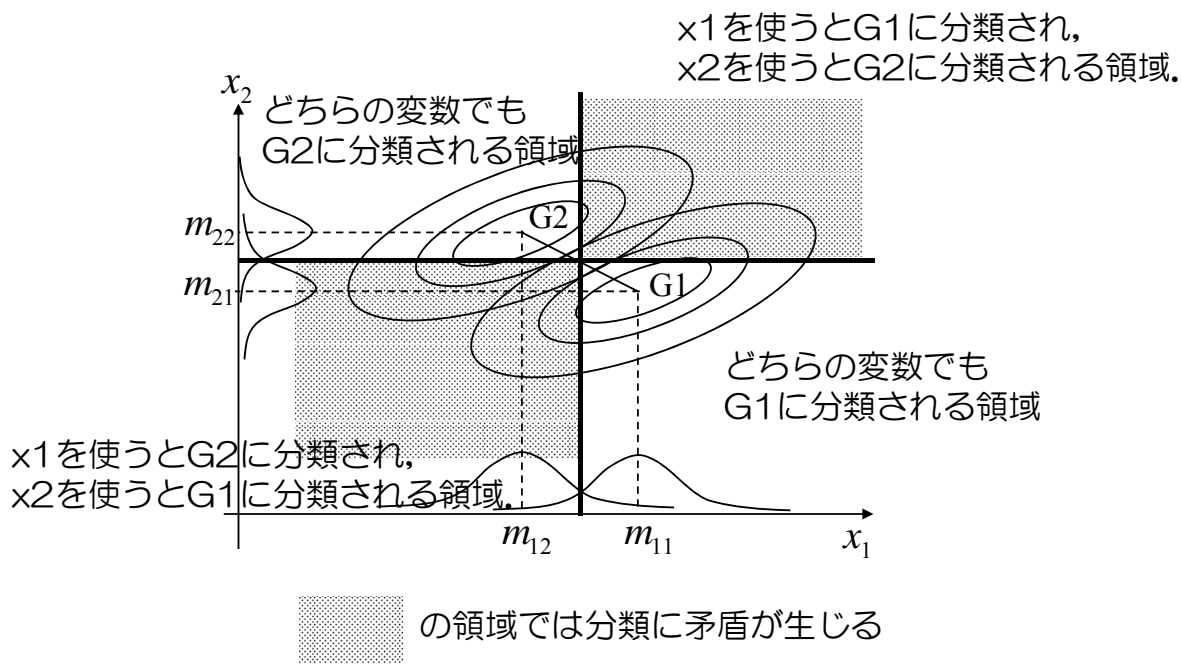
2変数による判別

共分散行列が等しく、平均ベクトルが異なる
2つの群,G1,G2を判別する式を求めたい。

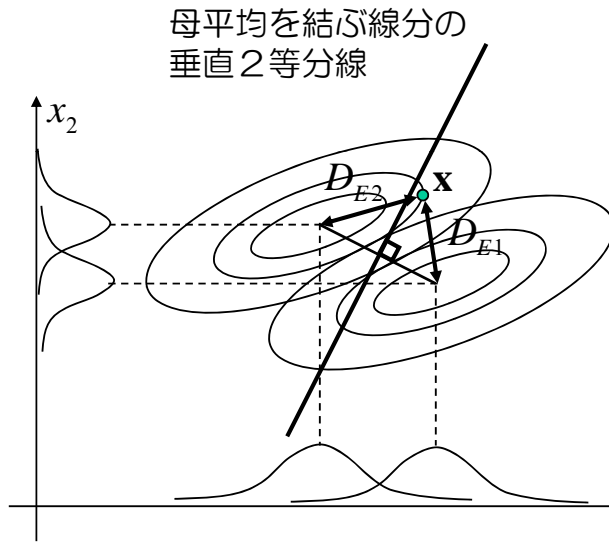


2変数による判別 — 1変数のみによる判別での問題点 —

仮にいずれか一方の変数のみで判別すると...



単純なユークリッド距離で判別することになると...



図において、観測値ベクトル \mathbf{x} の点はユークリッド距離では

$$D_{E1} < D_{E2}$$

となり、より近いG1に分類される。しかし、実際の生起確率は

$$p_2(\mathbf{x}) > p_1(\mathbf{x})$$

であり、G2に分類すべきである。このように、単純なユークリッド距離では望ましい判別ができない。

2変数による判別—マハラノビス距離による判別—

そこで、等生起確率を与えるマハラノビス距離で判別する

直線の方程式は

$$\delta_1 = m_{11} - m_{21}$$

$$\delta_2 = m_{12} - m_{22}$$

$$\bar{m}_1 = \frac{m_{11} + m_{12}}{2}$$

$$\bar{m}_2 = \frac{m_{21} + m_{22}}{2}$$

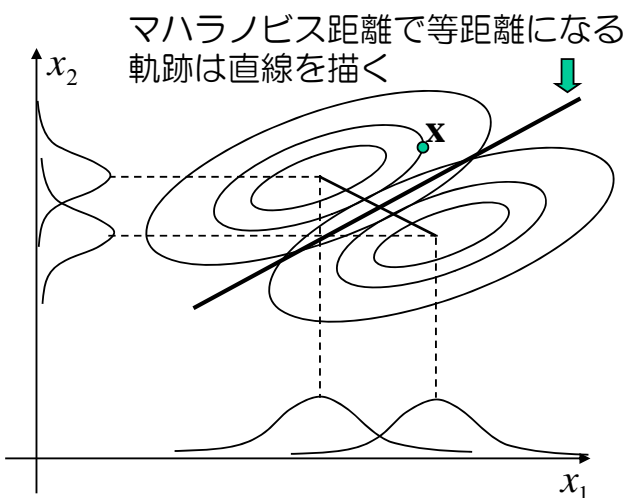
として、

$$f(x_1, x_2) \equiv (\sigma_{11}\delta_1 + \sigma_{12}\delta_2)(x_1 - \bar{m}_1) + (\sigma_{21}\delta_1 + \sigma_{22}\delta_2)(x_2 - \bar{m}_2) = 0$$

と書ける。

$$p_1(\mathbf{x}) = (2\pi)^{-1} |\mathbf{C}|^{-\frac{1}{2}} \exp\left[-\frac{1}{2}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_1)^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_1)\right]$$

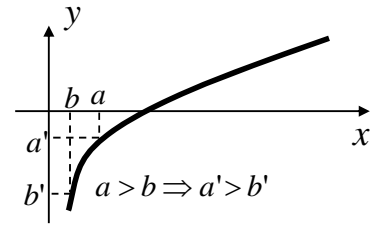
$$p_2(\mathbf{x}) = (2\pi)^{-1} |\mathbf{C}|^{-\frac{1}{2}} \exp\left[-\frac{1}{2}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_2)^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_2)\right]$$



2つの群を仮定したときの確率の大小を比較する。

$$p_1(\mathbf{x}) = (2\pi)^{-1} |\mathbf{C}|^{-\frac{1}{2}} \exp\left[-\frac{1}{2}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_1)^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_1)\right]$$

$$p_2(\mathbf{x}) = (2\pi)^{-1} |\mathbf{C}|^{-\frac{1}{2}} \exp\left[-\frac{1}{2}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_2)^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_2)\right]$$



比をとって比較

$$\frac{p_1(\mathbf{x})}{p_2(\mathbf{x})} = \frac{(2\pi)^{-1} |\mathbf{C}|^{-\frac{1}{2}} \exp\left[-\frac{1}{2}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_1)^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_1)\right]}{(2\pi)^{-1} |\mathbf{C}|^{-\frac{1}{2}} \exp\left[-\frac{1}{2}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_2)^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_2)\right]}$$

$$= \exp\left[-\frac{1}{2}\{(\mathbf{x} - \mathbf{m}_1)^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_1) - (\mathbf{x} - \mathbf{m}_2)^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_2)\}\right]$$

$$\frac{p_1(\mathbf{x})}{p_2(\mathbf{x})} > 1 \Leftrightarrow \mathbf{x} \in G_1$$

$$\frac{p_1(\mathbf{x})}{p_2(\mathbf{x})} < 1 \Leftrightarrow \mathbf{x} \in G_2$$

対数をとって比較

$$\log \frac{p_1(\mathbf{x})}{p_2(\mathbf{x})} = -\frac{1}{2}\{(\mathbf{x} - \mathbf{m}_1)^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_1) - (\mathbf{x} - \mathbf{m}_2)^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_2)\}$$

$$= -\frac{1}{2}(D_{M,1}^2 - D_{M,2}^2)$$

$$\log \frac{p_1(\mathbf{x})}{p_2(\mathbf{x})} = -\frac{1}{2}(D_{M,1}^2 - D_{M,2}^2) > 0 \Leftrightarrow \mathbf{x} \in G_1$$

$$\log \frac{p_1(\mathbf{x})}{p_2(\mathbf{x})} = -\frac{1}{2}(D_{M,1}^2 - D_{M,2}^2) < 0 \Leftrightarrow \mathbf{x} \in G_2$$

➡ 生起確率の大小がマハラノビス距離の大小に対応づけられた。

判別関数の表現

判別関数を2つの群の平均までのマハラノビス距離の差で定義する。

$$f(\mathbf{x}) \equiv D_2^2(\mathbf{x}) - D_1^2(\mathbf{x}) \quad \text{ただし} \quad \begin{cases} D_1^2(\mathbf{x}) = (\mathbf{x} - \mathbf{m}_1)^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_1) \\ D_2^2(\mathbf{x}) = (\mathbf{x} - \mathbf{m}_2)^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_2) \end{cases}$$

$f(\mathbf{x})$ を $\mathbf{C}, \mathbf{m}_1, \mathbf{m}_2$ を使って表すと

$$f(\mathbf{x}) = (\mathbf{x} - \mathbf{m}_2)^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_2) - (\mathbf{x} - \mathbf{m}_1)^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{x} - \mathbf{m}_1)$$

すべて展開

$$= \underline{\mathbf{x}^T \mathbf{C}^{-1} \mathbf{x}} - \mathbf{x}^T \mathbf{C}^{-1} \mathbf{m}_2 - \mathbf{m}_2^T \mathbf{C}^{-1} \mathbf{x} + \mathbf{m}_2^T \mathbf{C}^{-1} \mathbf{m}_2$$

・下線部消える
・xでくくる

$$= \mathbf{x}^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{m}_1 - \mathbf{m}_2) + (\mathbf{m}_1 - \mathbf{m}_2)^T \mathbf{C}^{-1} \mathbf{x}$$

第1項：Cが対称行列のとき $\mathbf{a}^T \mathbf{C} \mathbf{b} = \mathbf{b}^T \mathbf{C} \mathbf{a}$ を利用
第2項：テクニク

$$- (\mathbf{m}_1^T \mathbf{C}^{-1} \mathbf{m}_1 - \mathbf{m}_2^T \mathbf{C}^{-1} \mathbf{m}_2)$$

$$= 2\mathbf{x}^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{m}_1 - \mathbf{m}_2)$$

$$- \{(\mathbf{m}_1 + \mathbf{m}_2)^T \mathbf{C}^{-1} \mathbf{m}_1 - (\mathbf{m}_1 + \mathbf{m}_2)^T \mathbf{C}^{-1} \mathbf{m}_2\}$$

$$= 2\mathbf{x}^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{m}_1 - \mathbf{m}_2)$$

$$- (\mathbf{m}_1 + \mathbf{m}_2)^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{m}_1 - \mathbf{m}_2)$$

$$= 2(\mathbf{x} - \bar{\mathbf{m}})^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{m}_1 - \mathbf{m}_2) \quad \text{ただし, } \bar{\mathbf{m}} = \frac{\mathbf{m}_1 + \mathbf{m}_2}{2}$$

$$f(\mathbf{x}) = 2(\mathbf{x} - \bar{\mathbf{m}})^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{m}_1 - \mathbf{m}_2)$$

$$\mathbf{C} = \begin{bmatrix} \sigma_{11} & \sigma_{12} \\ \sigma_{12} & \sigma_{22} \end{bmatrix} \quad \text{とおくと, } \mathbf{C}^{-1} = |\mathbf{C}|^{-1} \begin{bmatrix} \sigma_{22} & -\sigma_{12} \\ -\sigma_{12} & \sigma_{11} \end{bmatrix}$$

$$\begin{aligned} f(\mathbf{x}) &= 2(\mathbf{x} - \bar{\mathbf{m}})^T \mathbf{C}^{-1}(\mathbf{m}_1 - \mathbf{m}_2) \\ &= \left(\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} - \begin{bmatrix} \bar{m}_1 \\ \bar{m}_2 \end{bmatrix} \right)^T |\mathbf{C}|^{-1} \begin{bmatrix} \sigma_{22} & -\sigma_{12} \\ -\sigma_{12} & \sigma_{11} \end{bmatrix} \left(\begin{bmatrix} m_{1,1} \\ m_{1,2} \end{bmatrix} - \begin{bmatrix} m_{2,1} \\ m_{2,2} \end{bmatrix} \right) \\ &= \left(\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} - \begin{bmatrix} \bar{m}_1 \\ \bar{m}_2 \end{bmatrix} \right)^T |\mathbf{C}|^{-1} \begin{bmatrix} \sigma_{22} & -\sigma_{12} \\ -\sigma_{12} & \sigma_{11} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \delta_1 \\ \delta_2 \end{bmatrix} \\ &= |\mathbf{C}|^{-1} [(x_1 - \bar{m}_1)(\sigma_{22}\delta_1 - \sigma_{12}\delta_2) + (x_2 - \bar{m}_2)(-\sigma_{12}\delta_1 - \sigma_{11}\delta_2)] \end{aligned}$$

マハラノビス距離 -2変数の場合-

(I) 2変数が互いに無相関の場合

右図のような無相関な2次元正規母集団からサンプルが発生する場合を考える。

$$\text{平均: } \mathbf{m} = \begin{bmatrix} m_1 \\ m_2 \end{bmatrix} \quad \text{共分散行列: } \mathbf{C} = \begin{bmatrix} \sigma_1^2 & 0 \\ 0 & \sigma_2^2 \end{bmatrix}$$

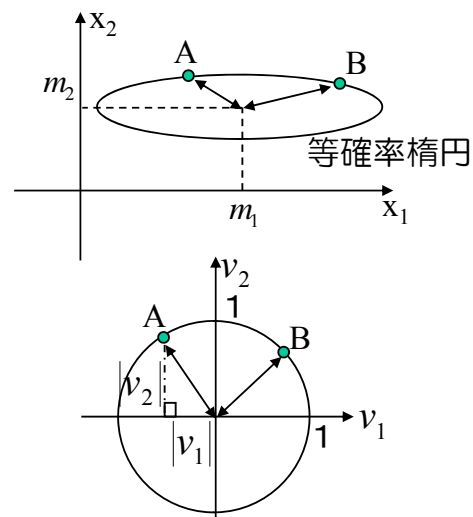
このサンプルの観測値 $\mathbf{x} = [x_1, x_2]^T$ を以下のように基準化する。

$$\begin{aligned} v_1 &= (x_1 - m_1) / \sigma_1 \\ v_2 &= (x_2 - m_2) / \sigma_2 \end{aligned}$$

$$\text{このとき, 平方距離は} \\ D^2 \equiv v_1^2 + v_2^2 = \frac{(x_1 - m_1)^2}{\sigma_1^2} + \frac{(x_2 - m_2)^2}{\sigma_2^2}$$

Dをマハラノビス距離とよぶ。

特徴：マハラノビス距離が等しい2点は同じ生起確率をもつ



(注) もとの観測値空間での単純なユークリッド(Euclid)距離では

$$D_E^2 \equiv (x_1 - m_1)^2 + (x_2 - m_2)^2$$

このとき, 図から明らかなように

$$D_{E,A}^2 \neq D_{E,B}^2$$

(III) 2変数に相関がある場合

右図のような相関のある2次元正規母集団からサンプルが発生する場合を考える。

統計量：

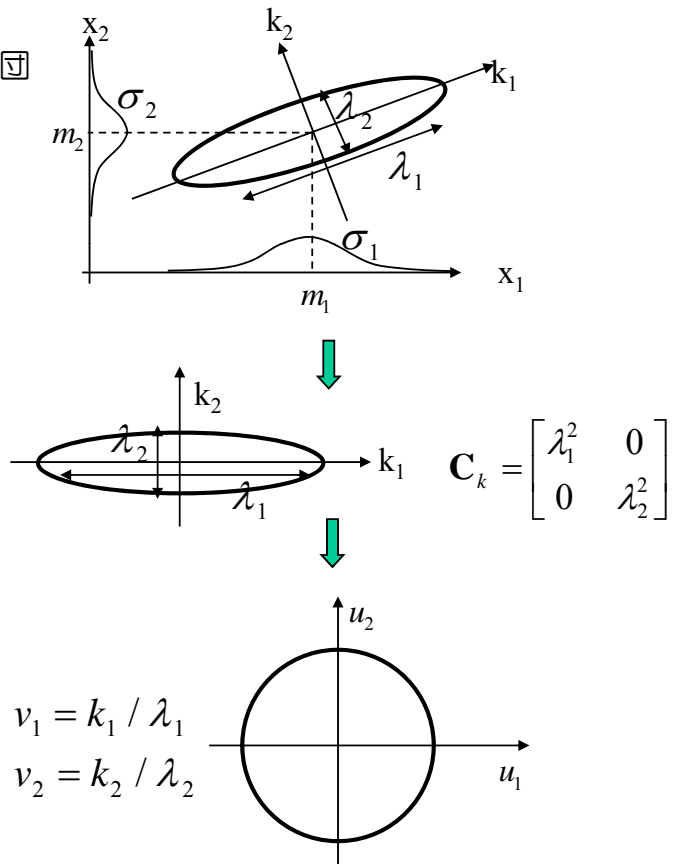
$$\mathbf{m} = \begin{bmatrix} m_1 \\ m_2 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{C} = \begin{bmatrix} \sigma_1^2 & \sigma_{12} \\ \sigma_{12} & \sigma_2^2 \end{bmatrix}$$

分布の主成分分析を行い、第1主成分および第2主成分を求める。

次に、各主成分方向を新しい座標系にとる。このとき平方距離は

$$D^2 \equiv u_1^2 + u_2^2 = \frac{k_1^2}{\lambda_1^2} + \frac{k_2^2}{\lambda_2^2}$$

Dをマハラノビス距離とよぶ。



マハラノビス距離 -一般的表現-

一般に、2変数のマハラノビス距離は以下のステップで変換した座標系におけるユークリッド距離で与えられる。

1. 平均を0にする。

$$\mathbf{x}' = \mathbf{x} - \mathbf{m}$$

2. 座標系を回転して (Hotelling変換) 主成分の方向を新しい軸とする。

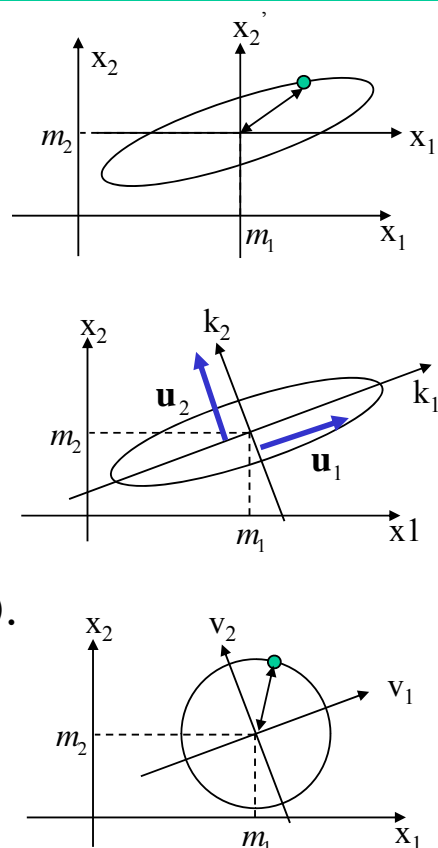
$$\mathbf{k} = \mathbf{U}\mathbf{x}' \quad \mathbf{U} = [\mathbf{u}_1 \quad \mathbf{u}_2]^T$$

3. 各主成分を、それぞれの標準偏差で割って正規化する (白色化: whitening)。

$$\mathbf{v} = \mathbf{C}_k^{-1/2} \mathbf{k}$$

4. 新しい座標系でのユークリッド距離を算出する。

$$D^2 \equiv \|\mathbf{v}\|^2 = \mathbf{v}^T \mathbf{v}$$



目標: D^2 を母集団の平均ベクトルと共分散行列で表す。

1. 平均を0にする.

$$\mathbf{x}' = \mathbf{x} - \mathbf{m}$$

2. 回転する. ただし $\mathbf{C}_k = \mathbf{U}\mathbf{C}\mathbf{U}^T$

$$\mathbf{k} = \mathbf{U}\mathbf{x}'$$

$$\mathbf{C}_k = \begin{bmatrix} \lambda_1^2 & 0 \\ 0 & \lambda_2^2 \end{bmatrix}$$

3. 各主成分を正規化する.

$$\mathbf{v} = \mathbf{C}_k^{-1/2}\mathbf{k} \quad \text{ただし} \quad \mathbf{C}_k^{-1/2} \equiv \begin{bmatrix} 1/\lambda_1 & 0 \\ 0 & 1/\lambda_2 \end{bmatrix}$$

要素で書けば

$$\begin{bmatrix} 1/\lambda_1 & 0 \\ 0 & 1/\lambda_2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} k_1 \\ k_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} k_1/\lambda_1 \\ k_2/\lambda_2 \end{bmatrix}$$

4. 新しい座標系でのユークリッド距離を算出する.

$$D^2 \equiv \|\mathbf{v}\|^2 = \mathbf{v}^T \mathbf{v}$$

D^2 を書き下すと

$$D^2 = \mathbf{v}^T \mathbf{v}$$

$$= (\mathbf{C}_k^{-1/2}\mathbf{k})^T \mathbf{C}_k^{-1/2}\mathbf{k}$$

$$= (\mathbf{C}_k^{-1/2}\mathbf{U}(\mathbf{x} - \mathbf{m}))^T \mathbf{C}_k^{-1/2}\mathbf{U}(\mathbf{x} - \mathbf{m})$$

$$= (\mathbf{x} - \mathbf{m})^T \mathbf{U}^T (\mathbf{C}_k^{-1/2})^T \mathbf{C}_k^{-1/2} \mathbf{U}(\mathbf{x} - \mathbf{m})$$

$$= (\mathbf{x} - \mathbf{m})^T \mathbf{U}^T \mathbf{C}_k^{-1} \mathbf{U}(\mathbf{x} - \mathbf{m})$$

$$= (\mathbf{x} - \mathbf{m})^T \mathbf{U}^T (\mathbf{U}\mathbf{C}^{-1}\mathbf{U}^T) \mathbf{U}(\mathbf{x} - \mathbf{m})$$

$$= (\mathbf{x} - \mathbf{m})^T \mathbf{C}^{-1} (\mathbf{x} - \mathbf{m})$$

ただし, 以下を用いた.

$$\mathbf{U}^T = \mathbf{U}^{-1}$$

$$\mathbf{C}_k^{-1} = (\mathbf{U}\mathbf{C}\mathbf{U}^T)^{-1}$$

$$= (\mathbf{U}^T)^{-1} \mathbf{C}^{-1} \mathbf{U}^{-1}$$

$$= \mathbf{U}\mathbf{C}^{-1}\mathbf{U}^T$$